

本当の幸せ

青くきれいな海
この海は
どんな景色を見たのだろうか
爆弾が何発も打ちこまれ
ほのおで包まれた町
そんな沖縄を見たのではない
だろうか

緑あふれる大地
この大地は
どんな声を聞いたのだろうか
けたたましい爆音
泣き叫ぶ幼子
兵士の声や銃声が入り乱れた
戦場
そんな沖縄を聞いたのだろうか

青く澄みわたる空
この空は
どんなことを思ったのだろうか
緑が消え町が消え希望の光を
失った島
体が震え心も震えた
いくつもの尊い命が奪われた
ことを知り
そんな沖縄に涙したのだろうか

平成時代
私はこの世に生まれた
青くきれいな海
緑あふれる大地
青く澄みわたる空しか知らない
海や大地や空が七十四年前
何を覚えて
何を聞き
何を聞いたのか
知らない世代が増えている
体験したことはなくとも
戦争の悲しさ
決して繰り返してはいけない
ことを
伝え継いでいくことは
今に生きる私たちの使命だ
二度と悲しい涙を流さない
めに
この島がこの国がこの世界が
幸せであるように
お金持ちになることや
有名になることが
幸せではない
家族と友達と笑い合える毎日
こそが
本当の幸せだ
未来に夢を持つことこそが
最高の幸せだ

「命どう宝」
生きているから笑い合える
生きているから未来がある
この幸せをいつまでも

令和時代
明日への希望を願う新しい時
代が始まった



6月23日の「慰霊の日」とは、戦後沖縄が日本に復帰するまであった琉球（りゅうきゅう）政府が制定した休日です。1972年に沖縄が日本に復帰した後は、日本国の休日に合わせるためになくなるかと思われたが、1991年に沖縄限定の休日として条例で復活しました。

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」 ロン・クラーク 草思社

ルール19 代わりの先生がきたときも礼儀正しくしよう

担任の先生じゃないからといって、ふざけたり、さわいだりしてはいけません。
●担任の先生が見ているからちゃんとするのではなく、だれも見なくてもきちんとしてできるようにしよう。勉強や仕事は、自分のためにするものなのだから。

校長室から ひがしなら通心

(R元年度) 茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 18
令和元年6月25日(火)発行

沖縄慰霊の日 ~毎日小学生新聞、朝日小学生新聞より~

沖縄は23日、「慰霊の日」を迎えました。74年前、沖縄本島の南に追い詰められた日本軍。6月23日の司令官牛島満中将の自決により、20万人以上が犠牲になった沖縄戦が終わった日とされています。その地は、沖縄戦跡国定公園となっており、その中に慰霊の日の式典（沖縄全戦没者追悼式）が行われる平和記念公園があります。有名な糸満市のひめゆりの塔も同じ国定公園のエリアです。

追悼式では毎年、沖縄の子どもたちがかつての沖縄戦への思いを寄せた詩を朗読しています。YouTubeで朗読の様子を見ることも可能です。

亡き祖父を思い

小6の山内さん「平和の詩」朗読

追悼式で「平和の詩」を朗読する山内玲奈さん

追悼式は、最後の激戦地だった同市摩文仁の平和祈念公園で行われました。安倍晋三総理大臣や

追悼式で黙とうする参列者—沖縄県糸満市の平和祈念公園で23日正午

沖縄慰霊の日 追悼式

太平洋戦争末期の沖縄戦の犠牲者を追悼する「慰霊の日」の23日、「沖縄全戦没者追悼式」で沖縄県糸満市立兼城小6年の山内玲奈さん(11)が自作の詩「本当の幸せ」を朗読しました。県民の4人に1人が亡くなったとされる激しい地上戦の光景を想像し、平和への強い思いを言葉に込めました。

追悼式は、最後の激戦地だった同市摩文仁の平和祈念公園で行われました。安倍晋三総理大臣や

山内さんは5月、平和学習で地元の県平和祈念資料館を訪ねました。撃たれて倒れる子どもの写真に「子どもたちまでもが戦争に巻き込まれたのか」と戦争の恐ろしさや平穏な日常のありがたさを知り、「平和の詩」をつづりました。この日は、昨年亡くなった祖父を思い、「平和を願ったおじいちゃんのが持ちが伝わるように」としっかりと読み上げました。

74年前の地上戦は過酷なものでした。10代の少年は兵士に、女学生は看護にかり出されました。無差別に撃ち込まれた砲弾が、ふるさとを削り取り、家族は逃げ惑いました。